

研究成果の紹介

兵庫オリジナルギクの冬期加温栽培による作期拡大

兵庫オリジナルギク（商品名「サンバمام」シリーズ）は季咲きでは10月出荷だが、8月中旬定植で11月以降、最低5℃の加温をすることで12月出荷できる。また、穂冷蔵を行い、10月中旬定植で電照時13℃、消灯後着蓄まで15℃、その後13℃加温し、これに再電照を組み合わせることで3月出荷も可能になった。

内容

兵庫県と兵庫県花卉協会きは共同で兵庫オリジナルギクの育成を行い、これまでに「兵庫花10号」と「兵庫花11号」を品種登録し、「兵庫花12号」と「兵庫花13号」を品種登録出願してきた。これらは10月咲きで出荷期間が限られていた。これまでに冬期18℃加温で3月まで出荷可能であることが分かっていたが、今回、温度条件を変更した12月出荷作型と3月出荷作型を開発したので紹介する。

12月出荷作型は7月末に挿し芽を行い、8月中旬に定植する。挿し芽開始時から10月上旬まで22時より4時間の夜間電照を行う。11月以降気温が低下してきたら最低5℃で加温する。花首伸長抑制のため着蓄時と3週間後にビーナインの1,000倍希釈液を散布する。電照消灯後の開花日数は60日から70日で、適応品種は前述の4品種である。ただし、「兵庫花10号」は低温により葉枯症状が出るため、県中北部で栽培するときは注意が必要

である。また、「兵庫花11号」は消灯後開花日数が75日程度になり、草丈が若干、短くなる。

3月出荷作型は8月末から挿し穂を2℃で4週間冷蔵処理し、9月末に挿し芽する。定植は10月中旬で、挿し芽開始時から年末まで22時より4時間の夜間電照を行い、年末に消灯する。加温は定植時から最低13℃とし、電照消灯時に最低15℃加温に変更する。着蓄が確認できたら再度最低13℃加温に変更し、同時に22時より4時間の再電照を7日間行う。この作型でも花首伸長抑制のため12月出荷作型と同様のビーナイン処理を行う。消灯後開花日数は70日前後で、適応品種は「兵庫花12号」と「兵庫花13号」である。

今後の方針

現地では12月出荷作型の試験導入を進めている。「兵庫花10号」と「兵庫花11号」も3月出荷作型の栽培条件を改良して適応させたい。

玉木 克知（農産園芸部）

（問い合わせ先 電話：0790-47-2424）

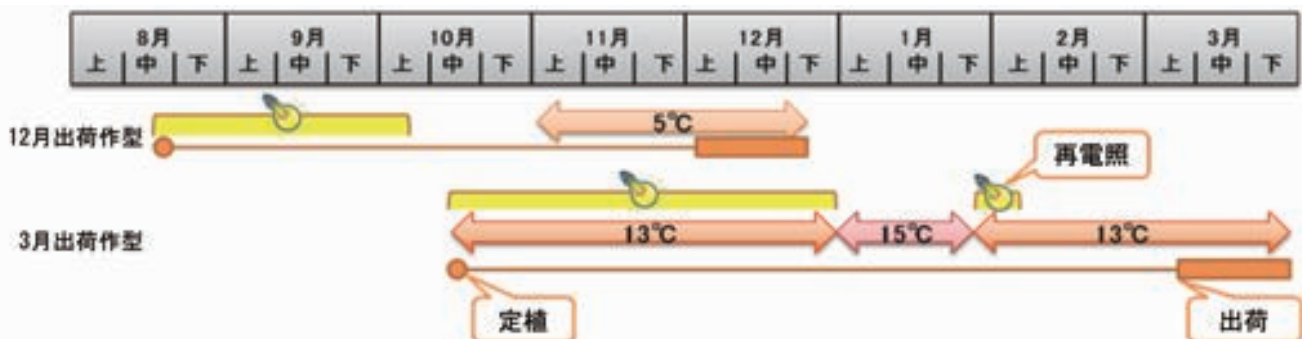


図 各作型の加温条件と電照期間